

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b1 コミュニケーションの生物学		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	篠原 一之	責任部局	医歯薬(医学系)
趣旨	<p>「ヒトは社会的動物である」といわれるように、我々が生きていくうえでは、様々な他者と交流しながら、社会生活を円滑に営んでいくことが不可欠です。このため、ヒトは高度に発達した社会的コミュニケーション能力を系統発生の過程で獲得してきたと考えられています。</p> <p>近年の脳科学の発展により、ヒト同士のコミュニケーションを可能ならしめている生物学的メカニズムが徐々に明らかになってきています。本モジュールでは、ヒトにおけるコミュニケーションの生物学的メカニズムに関する最新知見を概説します。その知識に基づき、コミュニケーション能力の個人差を生み出す生物学的因子、及び、コミュニケーション障害をもたらす疾患の病因について説明します。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	ヒトのコミュニケーション能力についての生物学的理解は、ユーザーインターフェース設計、BMI(Brain-Machine Interface)などの工学的課題、及び、環境化学物質の脳への影響をはじめとした環境学的問題とも密接な関わりがあります。講義の前提となる知識はその都度解説を加えますので、人間生物学、神経科学について学んだことが無い学生さんも安心して受講してください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
男と女の脳	篠原 一之	社会的コミュニケーション能力には著明な性差がみられるのみならず、脳性分化異常が社会的コミュニケーション能力障害をもたらすことが明らかにされている。本講義では、神経内分泌学、精神医学、心理学等の知見を俯瞰することで、コミュニケーション能力の個人差と脳性分化の関わりについての理解を深める。視聴覚教材を使った講義と、グループ学習を併用しつつ講義を進める。	性分化、ホルモン、遺伝子、脳、自閉症スペクトラム
脳の成り立ちと働き	有賀 純	脳と発達、脳と加齢、脳と再生、脳と進化、脳と血管、脳と病気、脳と治療薬、脳と薬物依存、脳と社会、脳と芸術、脳と宗教など、ヒトを特徴付ける脳について、多角的に学ぶ。一部の項目については学生が自由にテーマを選び、調査研究して、発表、議論する。	脳の構造、脳の機能、行動、神経疾患、治療、薬、社会性、比較生物学
反平和学～人はなぜ不幸になるのか	黒滝 直弘	本講座は如何に平和な、幸福な社会をつくるかではなく「不幸」を徹底的に解析する。その際、精神医学と心理学を主な武器とする。なぜ人は病気になるのか、なぜ核兵器は(おそらく簡単には)なくなるのか、同様に自殺はなくなるものなのか、失恋を予防するエビデンスはあるのかなどをかなり真面目に考える講座である。講義、映画視聴、学生のプレゼンなど様々な形態で授業は進む。多様な価値観に基づく学生の自主的な討論を期待する。	不幸、自殺、失恋、核兵器

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	現代的な話題 を取り入れる	用   アクティブ・ラーニングの活
男と女の脳	○		◎		○			○	○	◎	○	◎	◎	○	◎	○
脳の成り立ちと働き	◎	○	◎		◎	○		○	○	◎	○	◎	◎		◎	◎
反平和学～人はなぜ不幸になるのか	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
◎(特に重視)の数	2	0	3	0	2	0	0	0	0	2	0	3	3	1	3	2
○(重視)の数	1	2	0	1	1	2	1	3	3	1	3	0	0	1	0	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b2 脳と心		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	森 望	責任部局	医歯薬(医学系)
趣 旨	このモジュールでは脳科学の視点から人間性というものを考え、理解することをめざします。 大学を出れば社会人になる。それは自動的に大人になる、ということなのだろうか？大人(おとな)とはいったいどういうものなのか？そもそも「人間」とは何なのか？しっかりと人間性を育む。しっかりと人間になる。そして「大人」になる。意識して生きる必要があります。では「意識」とはいったい何か？どこにどうあるのか？それは私たちの「脳」。地球上の生命の進化史上、最大の進化産物です。単なる「知性」ではない、「精神性」をも育む組織器官。それはある意味では単なる神経の塊という物質なのです。物質から「心」が生まれる。脳によって世界を見る。もちろん「眼」をとおして「視覚」によって世界を把握しています。ビジョンを獲得する。マインドを育む。人間性の根源を脳科学から考えていきます。		
学生の皆さんへのメッセージ	しっかりと物事を見ることは大切です。自己意識をしっかりとつともつことも大切です。自分とはいったい何なのか？人間とは何か？自分と他者はどう違うのか？同じなのか？今、人間を理解するためには脳を理解することが重要です。脳科学の視点から自分を考える、他人を思いやる。そして、また一歩深く自分を理解する。大人への階段を登る。そのためには、脳を振り下げる必要があります。自分の脳の中を、心の中を探ってみて下さい。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
脳科学から探る人間性	森 望	いわゆる「知情意」。私たちの脳はそれを感じる。それを生み出す。しかし、他の動物と違ってさらに「真善美」をも解する。そこにこそ人間性の原点がある。無論、言語獲得も必要だったろう。地球上の生物進化の果てに私たちの脳があり、社会をつくり、人間関係を育んできた。脳の構造と機能性から私たちの心や人間性の派生のしきみを考えていく。	ニューロン、グリア、神経、脳、物質と心、精神性、ヒューマニティー
映画から学ぶライフサイクルとメンタルヘルス	小澤 寛樹	「映画」を観る。疑似体験をする。そして、感動する。人間は現実と虚構の世界を知っている。自分を取り巻くライフサイクルとメンタルヘルスの実情を「映画」から学んでみよう。そして、身近な現実を時に離れて、広い世界を考えてみよう。精神的な安定性を保つヒント、それは脳のどこかに隠されている。	心、精神、感情、思考、悩み、メンタルヘルス、精神疾患
視覚の発生、ロービジョンケア	北岡 隆	人間は「眼」をとおして世界を見る。「視覚」とはいったいどういうものなのか？人間の眼はどう発生し、どのように視覚を生ずるのか？視覚異常や視力の衰えはどうしておこるのか？それをどうケアするか？「見える」と「見る」ことを科学し、その医療の現状を知る。	眼、光、視覚、色覚、視覚野、医療

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
脳科学から探る人間性	○	○	○		○					○			○	○		○
映画から学ぶライフサイクルとメンタルヘルス		○	○	○	○			○			○	○			○	○
視覚の発生、ロービジョンケア	○									○	○				○	○
◎(特に重視)の数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○(重視)の数	2	2	2	1	2	0	0	1	0	2	2	1	1	1	2	3

※工学部・水産学部に  
係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b3 青壮年期における健康課題		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	楠葉 洋子	責任部局	医歯薬(保健学系)
趣旨	健康とは単に病気がないという状態ではなく、身体的・心理的・社会的・霊的に安寧な状態をいう。また健康問題を考えると、病気や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる(共生)という視点が重要である。そのためモジュールⅡではモジュールⅠを基礎として、ライフサイクルの中でも特に青壮年期における基本的な健康問題とトピックスについて教授する。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、健康問題に関心がある方、ほかの人と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。特に本カテゴリーでは、教室内における参加型学習やフィールドワークも取り入れますので、受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
育児リテラシー入門	大石 和代 永橋 美幸 山本 直子 上野 美穂	妊娠・出産・育児、親子の絆形成、胎児・乳幼児の発育・発達と育児技術について学習し、次世代育成能力を修得する。最後に男女共同参画と日本の現状について考察する。	男女共同参画社会、育児、子どもの発育・発達
仕事と健康	楠葉 洋子 中根 秀之 黒田 裕美	仕事は人間に報酬や達成感などの喜びをもたらすが健康問題にも関連している。メンタルヘルスの危機や生活習慣病などの仕事に関わる健康問題について理解する。	仕事、壮年期、労働環境、生活習慣病、メンタルヘルス、労働衛生
青年期の健康・体力増進	中垣内 真樹 永江 誠治 山崎 浩則	青年期にある大学生にとっての健康とは何かを学び、健康・体力増進のためのトレーニング、食生活等について理解する。	健康、体力、食事、メンタル、ヘルスポロモーション、発育発達

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	① 自主的探究	② 自己成長志向	③ 批判的思考	④ 相互啓発志向	⑤ 自己表現	⑥ 行動力	⑦ 社会貢献意欲	⑧ 日本語力	⑨ 英語力	⑩ 基盤的知識	⑪ 環境の意義	⑫ 多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
育児リテラシー入門	○	◎								◎	○	○	○	○	○	○
仕事と健康	◎	○			○						◎	○		○	◎	○
青年期の健康・体力増進	◎	◎		○	○	○	○					○		○		◎
◎(特に重視)の数	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1
○(重視)の数	1	1	0	1	2	1	1	0	0	0	1	3	1	3	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b4 ハンディキャップの理解		
対象学部	工学部・環境科学部		
テーマ責任者	井口 茂	責任部局	医歯薬(保健学系)
趣 旨	<p>障害とは単に医学的な問題だけでなく、心身・活動・参加に関わる生活上の問題として捉える必要がある。そのため、障害を捉えていく上で、障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる(多様性と共生)という視点が重要である。ここでの「多様性と共生」には、「インクルージョン」、「人権」、「リハビリテーション」も含まれ、子どもから高齢者までのすべてのライフサイクルが対象となる。</p> <p>モジュールⅡ科目ではモジュールⅠを基礎として、ライフサイクルに応じた基本的な障がい問題とトピックスについて教授する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識は特に問いませんが、障がい者・高齢者に関わる生活問題に関心がある方、ほかの人と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。特にモジュールⅡでは教室内だけの学習活動にとどまらずフィールドワークも取り入れますので、受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
共生へのチャレンジ	村田 潤 東嶋 美佐子	疾病・事故・加齢等に伴う心身機能の障害やそれらに惹起される生活障害について理解するとともに、共生のための環境作りや工夫について考察する。	生活障害 リハビリテーション 福祉機器
老いと健康	井口 茂 横尾 誠一 田中 浩二	加齢に伴って起こる心身の変化と健康・生活問題について理解する。また、フィールドワークを通して、高齢者の意識について考察する。	高齢者の心身の健康、高齢者の生活、介護予防
障害体験と支援	東 登志夫 川崎 涼子 杉山 和一 中原 和美	各種障害の疑似体験を通して障害を理解し、支援の必要性について考察する。	障害、高齢者、支援、斜面

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
共生へのチャレンジ		○	○		○		○	○		◎	◎	◎			◎	○
老いと健康	◎	◎	◎		◎					○			○	○	◎	○
障害体験と支援	○	○		○		○	○			○	◎	◎			○	◎
◎(特に重視)の数	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	2	2	0	0	2	1
○(重視)の数	1	2	1	1	1	1	2	1	0	2	0	0	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b5 現代経済と企業活動c		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	深浦 厚之	責任部局	経済学部
趣旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らないようにしなければならない。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
国際社会と日本経済	薛 軍	経済活動は国境を超える。輸出入やお金の移動、労働者の移動などの問題を通じ、グローバル化による繁栄への道を考察する。	国際投資 地域統合 現地化
社会制度と経済活動	深浦 厚之	市場制度、金融制度、法制度は自由な経済活動を支える土台である。効率的なビジネスのための制度や法律、企業・消費者の利益を守るための制度や法律について多面的に考察する。	市場 貨幣 金融制度
経営情報と会計情報	津留崎 和義	新しい仕組みを創造することで新たな価値を生み出すイノベーション。イノベーションをおこすための思考の型を、実践的に体感していく。	イノベーション 未来志向

全学モジュールの 目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
国際社会と日本経済	○			○	○					○				◎	○	
社会制度と経済活動	○	○			○					○				◎	○	
経営情報と会計情報		○		◎	○		○					◎		○		◎
◎(特に重視)の数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1
○(重視)の数	2	2	0	1	3	0	1	0	0	2	0	0	0	1	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b6 現代経済と企業活動d		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	村田 嘉弘	責任部局	経済学部
趣旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らないようにしなければならない。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
企業行動と戦略	村田 嘉弘	発展する企業・魅力的な企業はどのような経営をしているのだろうか。企業を成功に導くためのヒト・モノ・カネ・情報の使い方について考察する。	経営資源、市場、経営戦略、起業
社会制度と経済活動	式見 雅代	我々は、モノやサービスの購入などの経済活動を行うためにお金を必要とする。お金の価値が守られるための金融のしくみについて、考察する。	貨幣、中央銀行、金融システム
経営情報と会計情報	林川 美由樹	財務情報や経営情報は企業と投資家の意思決定にどのように影響を与えるのか。企業内外の情報の流れと企業活動の関係が緊密化する現代社会の一面を考察する。	ディスクロージャー 投資意思決定 国際会計

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
企業行動と戦略	◎	◎	○			○	◎			○				○	◎	○
社会制度と経済活動	◎	◎	○		○		◎			◎	◎	○		◎	◎	○
経営情報と会計情報	◎	○		○		○				◎				○	○	○
◎(特に重視)の数	3	2	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	1	2	0
○(重視)の数	0	1	2	1	1	2	0	0	0	1	0	1	0	2	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b7 変わり行く社会を生きる2		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	西田 治	責任部局	教育学部
趣 旨	社会の変化は、これまで私たちが経験したことのない速さで、かつ大規模に進んでいます。本モジュールでは、私たちの身近に起こっている社会の変化を、数字、文字、音楽という3つの視点から紐解いていきます。そして、変化する社会の中でいかに生きるか、また将来目指すべき社会の姿やよりよく生きる自分の姿について考えます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。しかしその私たち一人一人は異なる意識や視点、経験を持っています。そうした“個”を意識するとともに、社会という“集団”の中で対応する力をつけるべく、本モジュールでは、私たちが生きる社会の変化について学び、これからの社会の在り方について考える機会にしましょう。		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
数字と社会	平岡 賢治	数は社会の重要な構成要素であることを、その歴史等を通じて理解する。また、数学的な考え方は多様であり有用であることを、様々な事例を通じて理解する。さらに、数学の美しさや面白さを体感することを目指す。*集中講義	数の表記とその歴史、数の表現のよさ、数の面白さと不思議さ
音楽と社会	西田 治	音・音楽と人間の関わりがどうであるかについて、音風景と参加型音楽の二つの視点を切り口として考察していく。体験的な内容を含むが、受講者の音楽の得意・不得意は全く問わない。	音楽、サウンドスケープ、音の風景
文字と社会	鈴木 慶子 中村 文子	日本の文字の歴史を理解するとともに、表現方法と社会との関係を、文字を書く体験を通して認識する。	日本の文字、書法、

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
数学と社会	◎	○	◎	○	◎	○		○		◎		◎	○	◎	◎	○
音楽と社会	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎				○	◎		○	◎
文字と社会	◎	◎	◎	◎	◎			◎		◎			○			◎
◎(特に重視)の数	3	2	2	2	3	1	1	2	0	2	0	1	1	1	1	2
○(重視)の数	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	2	0	1	1

※工学部・水産学部に  
係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b8 変わり行く社会を生きる3		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	劉 卿美	責任部局	言語教育研究センター
趣 旨	社会の変化は、これまで私たちが経験したことのない速さで、かつ大規模に進んでいます。本モジュールでは、私たちの身近に起こっている社会の変化を、3つの視点、つまり多文化、ICT 活用、障がいの視点から迫ります。そのなかで、加速する社会の変化にいかに対応し、また将来目指すべき社会の姿は何かについて考えます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。しかし普段、このことについて考えることは少なかったのではないのでしょうか。本モジュールでは、私たちが生きる社会の変化について学び、これからの社会の在り方について考える機会にしましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
多文化社会	劉 卿美 楠山 研 ペー・シュウキー	隣国、韓国やマレーシア等の例を見ながら、多文化社会がかかえる課題について理解する。さらに、それぞれの違いを認識し、共に生きる、共生社会について考える。	多文化理解、韓国、マレーシア、共生社会
障がいと社会	川越 明日香 橋本 優花里	心理学の立場から脳の器質的な損傷によるコミュニケーションの障がいを理解し、共生社会について考える *集中講義の形態をとります。	脳、ことば、共生社会
ICTと社会	福田 正弘 全 炳徳	ICT 機器やアプリケーションを自身の課題に即して具体的に活用することを通して、社会生活を支えているICTの意義と、ICTに支えられている社会の課題について主体的に学ぶ。	ICT、マッピング、シミュレーション

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り入れる	現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
多文化社会	◎	○	◎	○	◎		○	○		○		◎		○	◎	◎
障がいと社会	◎	○	◎	◎			◎			○		◎			◎	◎
ICTと社会	○		◎	○	○			○		○				○		○
◎(特に重視)の数	2	0	3	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	2	2
○(重視)の数	1	2	0	2	1	0	1	2	0	3	0	0	0	2	0	1

※工学部・水産学部に  
係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b9 食の安全と持続的な海洋食料資源の利用		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	亀田 和彦	責任部局	水産学部
趣旨	海洋は生物、鉱物、エネルギーなどの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。本モジュールでは、海洋生物資源の生産・培養、管理、持続可能で効果的な漁獲や効率的な利用に関する原理や方法、海洋環境の保全・修復などについて、現代社会における実課題例を交えながら学びます。このように、海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけます。		
学生の皆さんへのメッセージ	・海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。 ・授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
生物から見た水産業	天野 雅男 小井土 隆 河邊 玲	漁業には、生物資源の特性を理解し、適切に管理し、効率的に漁獲をすることが求められています。生物の行動や生態の解析、個体群や生態系の特性を明らかにする方法、さらにその結果を漁業に活かす方法について、最新の研究結果を含めて解説します。そして、生態系を保全しつつ持続可能な漁業を実現するためには何をすべきかを考える能力を養います。	漁業管理・生活史・生態学的特性・行動・混獲・バイオロギング
人から見た水産業	亀田 和彦 山本 尚俊 清水 健一	漁船と漁具・漁法には安全性、効率性、環境への配慮が、漁獲と価値形成には流通や経済の視点が欠かせません。これらを切り口に、対象生物が生息する海洋生態系から少なくとも縄文時代以降ヒトのみに付与された道具作成能力の結果として漁具・漁船に関係する歴史と現状、産業としての観点からの経済学的視点を総括して話題を提供します。高等学校での生物、物理、公民のかかわりが深い。	人間・水産・漁業・道具・船と航海・漁船漁業・資源と環境・食糧問題・持続性
海洋食料資源の応用	市川 寿 濱田 友貴 谷山 茂人 橘 勝康	摂取すべき食品を知り、マリンフードの成分とその変化、多量さ、製造方法、さらには衛生管理、安全確保に関わる諸問題を理解することで、食に関する今日的な課題にどう対処したら良いかを考えます。	食品機能・食事バランス・食品成分と変化・加工食品

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
生物から見た水産業	○	○	○		○		○	○	○	◎	◎	○		◎	◎	○
人から見た水産業	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	○
海洋食料資源の応用	○	○	○	◎		○			◎	○	○	○		○	○	◎
◎(特に重視)の数	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	1	2	2	1
○(重視)の数	2	3	3	1	2	2	2	2	3	1	2	3	0	1	1	2

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b10 海洋生態系の保全と管理		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	梅澤 有	責任部局	水産学部
趣旨	<p>海洋は生物、鉱物などの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。本モジュールでは、海洋生物資源の生産・培養、管理、持続可能で効果的な漁獲や効率的な利用に関する原理や方法、海洋環境の保全・修復、環境保全のための基本法について、現代社会における実課題例を交えながら学びます。このように、海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。</li> <li>・授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。</li> </ul>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
海洋の生物と科学	阪倉 良孝 征矢野 清 萩原 篤志	海洋生物（遺伝子資源も含む）の個体、個体群、群集、生態系において起こる様々な生命現象や、海洋生物資源の生産・培養技術について、幅広い視点から講義します。モジュールⅠ「海の生物と多様性」の応用篇とした位置づけです。具体的には天然資源に影響を与えないように完全養殖を達成するプロセスを見ていきます。	多様性・プランクトン・魚類・繁殖・生態・養殖
海洋環境と保全	鈴木 利一 SATUITO CYRIL GLENN 北村 等	海洋環境を保全する意義を理解するため、沿岸の無脊椎動物幼生・付着生物・浮游生物に着目し、個体・個体群・群集に関する基礎的知見を踏まえ、環境被害と対策、海洋における人間活動への影響等の内容を学習します。	無脊椎動物幼生・付着生物・浮游生物・沿岸環境
海洋関連法とアセスメント	梅澤 有 山下敬彦 竹下哲史 久保隆	環境問題に関する考え方、国際環境法や国内の環境基本法の理念について学び、現在の海洋環境問題を捉えていきます。水質汚濁や護岸工事等の公共事業から自然環境を保全・修復していくことを目的とした環境アセスメントの手法やその評価について、また、海洋生態系の劣化を抑制していく技術革新について、考えていきます。	国際環境法・環境基本法・環境アセスメント・養殖の未来技術・海洋環境問題

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点							
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)													
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D				
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	を 取 り 扱 う	人 文 科 学 の 内 容	を 取 り 扱 う	社 会 科 学 の 内 容	取 り 入 れ る	現 代 的 な 話 題 を	ニ ン グ の 活 用	ア ク テ イ ブ ・ ラ ー
海洋の生物と科学	○	◎	○		○		◎	◎	◎	◎	◎	○	○			○		◎		
海洋環境と保全	○	◎			○		○	◎	◎		◎				○	○		◎		
海洋関連法とアセスメント	◎	○	◎		○		◎	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
◎(特に重視)の数	1	2	1	0	0	0	2	2	2	2	3	0	1	1	1	1	3			
○(重視)の数	2	1	1	0	3	0	1	1	1	0	0	2	1	1	2	0				

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b11 社会と文化の多様性		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	滝澤 克彦	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ	葉柳 和則 増田 研 見原 礼子 小松 悟	全員で具体的な事例を検討する作業を通して、「ヨーロッパ」、「アジア」、「アフリカ」の〈社会・文化・人間〉を、それぞれの地域に本質的に備わる固定的なアイデンティティ(同一性)としてとらえるのではなく、その環境(Umwelt=取り囲む世界)である域外の〈社会・文化・人間〉とのグローバルな相互作用の中で、絶えずゆらぎ、変化し続けるものとして理解する。	多言語・多文化国家(スイス・ベルギー)、EUのトルコ系住民(オランダ・ドイツ)、グローバル化と地域(EU・アジア・アフリカ)、経済発展と貧困・格差、本質主義
宗教から見た日本	滝澤 克彦	日本の宗教文化は、その風土を反映し実に多様で混合性に富む。この授業では、個別の組織宗教だけではなく民間信仰やスピリチュアリティに至るまで様々な事例をとりあげ、「日本文化」と呼ばれるものの特質に迫る。	宗教文化、風土、組織宗教、民間信仰、スピリチュアリティ
日本のことばと文芸	中島 貴奈	さまざまな時代の文学資料を取り上げ、そこに見られる中国文学・文化の影響を中心とした諸問題を考察することを通して、日本文学・日本文化に対する理解を深める。	日本文学 日中比較 中国文学

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ	○		◎	○				○		○		◎	○	◎	◎	○
宗教から見た日本	◎	◎	◎	◎	○		○	○		○	◎	◎	○	○	○	○
日本のことばと文芸	◎		◎	○	◎	○		◎		◎		◎			○	○
◎(特に重視)の数	2	1	3	1	1	0	0	1	0	1	1	3	0	1	1	0
○(重視)の数	1	0	0	2	1	1	1	2	0	2	0	0	2	1	2	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	15-b12 文化の交流と共生		
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	野上 建紀	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にもなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
世界と日本の文化交流	野上 建紀	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も重要なもののひとつである。世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となっている。そのため、陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりについて理解を深める。	陶磁器 文化交流 水中考古学
芸術で見る世界と日本	グラジディアン マリア	人類学の理論と方法を用いて、現代日本芸術の現象にアプローチすることによって、現代日本文化の表象の中に書き込まれた価値観や暗黙のうちに仮定されている前提を明らかにすることが本講義の目的である。日常生活の中で体験する大衆音楽・文学、映画、演劇などの文化的現象を中心に事例として取り上げ、それらと前近代日本文化、現代日本古典文化、または、西欧文化の表現ジャンルとを比較する。	メディア、表象 大衆文化 日本、西欧 比較分析
アジアにおける人の移動と日本	賽漢卓娜	「グローバル化」の進展に伴い、多様な文化的・社会的・民族的バックグラウンドを背負った人々が「移民」として地球規模で移動するようになり、今の時代を生きる誰もが、人の移動によって生じる諸問題に直面する。この授業ではアジアに焦点を定め、人の移動にかかわる諸現象(移動の経緯、移動をもたらす諸要因や、人の移動による文化交流と新たな社会空間の生成など)を講義することで、アジアと日本の多民族・多文化状況や、異なる言語と文化を持つ人々との共生と協働について理解を深める。	移民 エスニシティ マイノリティとマジョリティ 社会的包摂と排除

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	を現代的な話題 を取り入れる	アクティブ・ラ ーニングの活用
世界と日本の文化交流	◎		○					○		◎		◎	◎			○
芸術で見る世界と日本	◎	◎	◎		◎		○		○			◎	○	◎	◎	
アジアにおける人の移動と日本	○		◎	○			○			○		◎		◎	◎	○
◎(特に重視)の数	2	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	3	1	2	2	0
○(重視)の数	1	0	1	1	0	0	2	1	1	2	0	0	1	0	0	2

※工学部・水産学部に  
係る JABEE 項目